

2 愛媛県地域防災計画 は南海トラフ地震で 震度7想定

愛媛県地域防災計画（地震災害対策編）12頁

海・南海地震とその後発生した昭和東南海（1944年）・南海地震（1946年）の間隔は約90年と短くなっている。このことは、宝永地震（1707年）以降の活動に限れば、次の大地震が発生するまでの期間が、前の地震の規模に比例するという時間予測モデルが成立している可能性を示している。時間予測モデルには、様々な問題点があることが指摘されているものの、このモデルが成立すると仮定した場合、昭和東南海・南海地震の規模は、安政東海・南海地震より小さいので、室津港（高知県）の隆起量をもとに次の地震までの発生間隔を求めると、88.2年となる。現時点（2017年1月1日）では昭和東南海・南海地震の発生から既に70年以上が経過しており、次の大地震発生切迫性が高まっていると言える。

3 南海トラフで発生する地震の多様性について

南海地域における地震と東海地域における地震は、同時に発生している場合がある。東海地域の地震でも、御前崎と駿河湾の奥まですべりが広がると、若干の時間差（数年以内）をもって発生している場合がある。東海地域の地震でも、御前崎と駿河湾の奥まですべりが広がると、若干の時間差（数年以内）をもって発生している場合がある。東海地域の地震でも、御前崎と駿河湾の奥まですべりが広がると、若干の時間差（数年以内）をもって発生している場合がある。

愛媛県地域防災計画

（地震災害対策編）

令和元年度修正

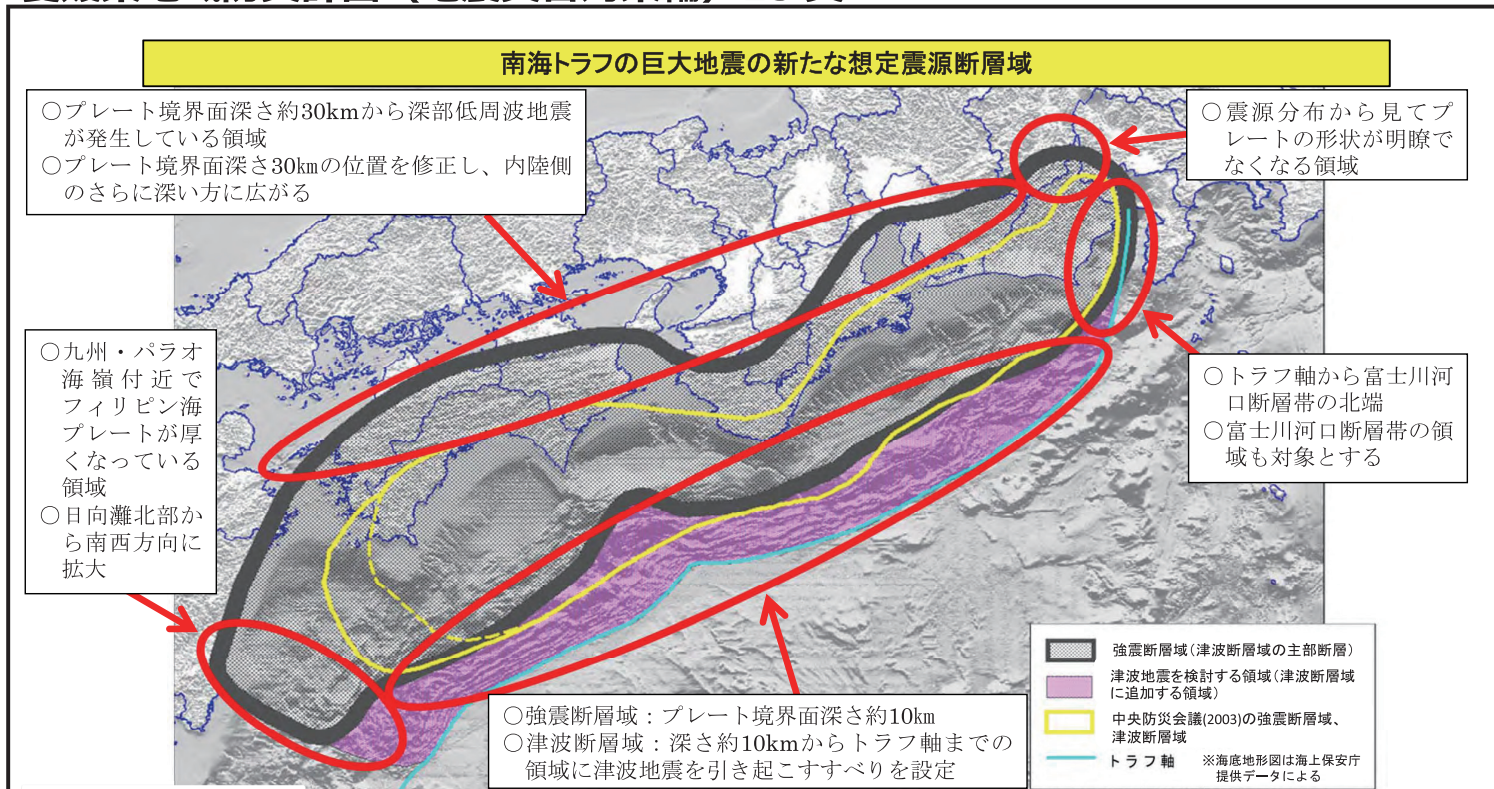
愛媛県防災会議

…室津港（高知県）の隆起量をもとに次の地震までの発生間隔を求めると、88.2年となる。現時点（2017年1月1日）では昭和東南海・南海地震の発生から既に70年以上が経過しており、次の大地震発生切迫性が高まっていると言える。

Mw9.0 強震断層域 11万平方キロメートル
※Mwはモーメントマグニチュード。気象庁マグニチュードはMjと表記する。

伊方町 震度7

愛媛県地域防災計画（地震災害対策編）13頁



地震の規模(確定値)

	南海トラフの巨大地震（強震断層域）	南海トラフの巨大地震（津波断層域）	参考			
			2011年 東北地方太平洋沖地震	2004年 スマトラ島沖地震	2010年 チリ中部地震	中央防災会議(2003) 強震断層域
面積	約11万km ²	約14万km ²	約10万km ² (約500km×約200km)	約18万km ² (約1200km×約150km)	約6万km ² (約400km×約140km)	約6.1万km ²
モーメント マグニチュード Mw	9.0	9.1	9.0 (気象庁)	9.1 (Ammon et al., 2005) [9.0 (理科年表)]	8.7 (Pulido et al., in press) [8.8 (理科年表)]	8.7

※「南海トラフの巨大地震モデル検討会」平成 25 年 3 月 31 日公表 「南海トラフの巨大地震の新たな想定震源断層域」
<http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/model/15/index.html>